

研究テーマ 知りたい気持ちから育む探求活動

～子どもの興味から教育的価値を生み出す保育とは～

実践事例 「この実何?? 謎の実の正体は?」

*富田林市立新堂幼稚園

*5歳児そら組 (男児4名女児3名計7名) 2年保育 担任*井上直美

*主題設定の理由

本園は子どもの主体的遊びを基盤に教育活動を展開している。子どもの興味から教育的価値を生み出す環境とは何か、子どもと教師で創意工夫がいかされ合う応対的環境とは何かを探り、子どもの姿の検証と共に教育的価値を生み出す保育について職員間でカンファレンスを実施している。目の前にいる子ども達に必要な経験や遊び探り、豊かな経験、豊かな教育活動へとつなげていきたい。

*子どもの姿

4歳児入園の頃より、保育室前にある、畑やビオトープにいるいきものを含む自然に関心をもつ。自然の中で遊び、よく見る、触れる、飼育する、調べる等興味にあわせ活動を展開してきた。子ども達はたくさんの不思議に出会い、心をゆさぶられ、命ある自然物(いきもの、植物も含む)に愛着を持つ。たくさんの「なんでかな?」「不思議だな」から「やっぱりそうか!」「なるほど」を経験から見つけてきた。例えば、青虫は蛹になり蝶になること、蛹になるときに血を出す蝶、蝶になるときに血を出す蝶(蛹便)、カエルが卵を産む時は大声を出すことなど、自分達が繰り返し見てきたことで、自然の営みに気がついていく。

子ども達の興味から育む探求活動においては、経験を積み重ねて自然への愛着、しっかりと見届け、物事の着眼点、変化変容に気付く力、知りたい気持ちからの集中力など育ちが確信できる。

7人という小さなクラス集団の中では自分を存分に発揮し、いきいきと活動を展開している。しかし、園に誰かが来る、他園との交流、小学校との交流など、小さな環境の変化には戸惑いを隠せず、自分らしさを発揮することに時間がかかる。特に相手に伝えようとする力や言語表現には自信がない様子に感じる。経験がないことに戸惑う気持ちは当たり前と受け止めつつ、子ども達の関心事から自信につながる活動を展開して、豊かな経験へとつなげていきたいと願っている。

その他

- ・本園の園児数 4歳児 12名 5歳児7名 計19名
- ・ティータイムカンファレンス(日常的)や保育カンファレンス(会議として位置づけ)を実施
- ・校区の特徴 本園を含む富田林第一中学校校区は幼小中連携に歴史があり、学びのつながりを検証する11カ年プロジェクトを実施している。

教師の思い、読み取り

*明記のない会話文は
すべて子どもの言葉